

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	小城市立 牛津中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	定期的な研修や相互参観授業、ICT機器の活用で、教員の授業改善をすすめることができた。「先生方の授業は分かりやすい」と答えた生徒が大半で、自ら進んで意欲的に授業に取り組んでいる。結果、学力検査(定期テスト・実力テスト等)の正答率も向上している。今後もより一層のICT活用を中心としたスキルを向上させ、教員の授業力向上、生徒の意欲向上に努めていく。「豊かな人間性の育成」については、「望ましい学年・学級集団づくりをされている」と答え生徒が大半である。学級活動や「特別な教科 道徳」等の授業、各種行事等を通して、「思いやり」や「感謝」について考えることができた。「健やかな体の育成」についても同様に、大半の生徒が「健康教育」を通じて、「自他の命を尊重する態度が育ったと思う」、「健康に食事は大切である」と生徒が答えており、健康や安全に対する意識が高い。業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、定時退勤日の設定や昼休みの二分割に取り組み、推進することで時間外勤務が減少し、効果は現れてきている。今後もさらなる意識改革を図っていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	豊かな人間性を培い、志を高く学び続ける生徒の育成 ～ 主体性を高めることを通して ～
----------	--

3 本年度の重点目標	① 確かな学力の育成：基礎的基本的な学習内容の定着と家庭学習の習慣化を図る ② 豊かな人間性の育成：支持的風土をもつ集団づくりを推進し、感謝する心の育成を図る ③ 健やかな体の育成：健康、安全に対する意識を高め、基礎的な体力の向上を図る
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
●学力の向上	○効果的にICTを活用した授業の実践と工夫。 ○県の研究指定を受けた、ICTを活用した授業実践と公開授業研究会の開催。	○「ICTを活用した授業を実施した」と答える教員を100%にする。 ○「ICT活用で工夫した」と答える教員80%以上。	・ICT活用研修を定期的に行い、職員ICT活用技能向上を目指すとともに、わかりやすい授業の実践を目指す。 ・最低一人1回以上の相互参観授業を行い、積極的且つ効果的な授業でのICT活用を目指し、情報を共有する。	A	・各教科の研究授業や授業参観を行った結果、教員の授業力向上に繋げることができたと思われる。また、職員研修を充実させたことで、スキルアップすることができた。 ・「ICT活用した授業を実施できた職員が96.4%であった。100%になるよう、今後も研修等に力をいれていく。 ・佐賀県研究事業指定を受けたことで、ICT活用における職員の知識・技能も向上した。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	○生徒一人一人が安全・安心して過ごせる学校・学年・学級集団づくりを推進する。 ○「特別な教科 道徳」の学習を通し、自己有用感・自己肯定感を伸ばしていくことができるよう、アンケート等を活用しながら検証し、割合を80%以上にする。	・全職員で、「特別な教科 道徳」の授業を行い、豊かな心や人間性を培い、支持的風土を醸成し、認め合い、助け合い、支えあえる集団づくりの推進を行う。	A	・96.6%の生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えている。特にICTを活用した授業展開の授業力が向上していると考えられる。 ・95.4%の生徒が「安心して学校生活できる望ましい学級・学年集団作りをされている」と答えている。「特別な教科 道徳」や日常の指導・支援を通して、互いに認め合う集団づくりの成果と考えられる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実。	○生徒の日常生活や相談、行動、発言等、生徒の変容等を常時観察し、「小城市のいじめ防止・心を考える日」を活用して、定期的な生活アンケート等(月に1回)を実施する。	・生徒指導部や生徒支援部会の運営を充実させ、情報を共有し、各種研修会等で職員のスキルアップを図り、いじめの未然防止に努める。 ・QU検査の実施により、支援が必要な生徒の把握と対応に努める。	A	・生徒92.4%、教職員96.4%、保護者92.7%以上の回答で「あてはまる」と答えている。「特別な教科 道徳」の授業はもとより、学級活動や、各種行事等で自己存在感・自己肯定感・達成感を味わわせることは、他者を大切に思うことに気づけるような支援が効果的であった。 ・QU検査の結果を年2回分析し、学年職員で生徒一人一人を把握して、指導・支援を行うことができた。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」。	●「健康に良い食事をしている」児童生徒95%以上	・学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな体を育むための食に対する知識の習得と自分の健康について考えた食事をしようとする態度の定着を図る。 ・給食時に「一口メモ」を放送し、食に関する知識を習得させる。 ・早寝、早起き、朝ご飯の推進。	A	・99.2%の生徒が「健康に食事は大切である」と回答している。また、毎日きちんと朝食をとって登校している生徒が95.6%という結果になった。 ・給食時に毎回「食の大切さ」を放送で呼びかけることで、食事が健康にとって大切であるという意識の向上と習慣の定着を図ることができた。
	○健康・安全教育の推進。	○健康教育や予防教育等を年1回計画し実施する。	・発育測定やスポーツテスト等で自分の体の発育・発達を知り、健康に生きる意識を高める ・学校医等の外部講師による保健指導の工夫とスポーツテストの結果の分析。	A	・健康教育を全学年複数回実施し、97.5%の生徒が「自他の命を尊重する大切さを学ぶことができた」と回答。 ・実施前後のアンケートから、健康に関する意識が向上し、効果的な健康教育が実施できた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間を短縮する ○牛中ボード(タブレット)の活用を推進する。	・部活動活動方針を遵守し、活動時間や活動内容をガイドラインを守った指導・支援。 ・定時退勤推進日の設定を行い、前年度の時間外在校時間の削減。	B	・部活動休業日の実施については、ほぼ100%実施できている。定時退勤日については続けて呼びかけを行っているが、未だ個人差がある。また、休憩時間二分割の実施で、全体的に退勤時間が早くはなっているが、さらに効率化を図り、働き方改革に取り組む必要がある。
	○チーム牛津を意識した効率的な業務の推進。	○組織的且つ、効率的な業務への取組を推進し、教職員の時間外在校時間を削減する。	・組織的な対応を進めることで校務分掌や担当業務等、個人の負担を軽減するとともに、風通しのよい職場環境づくりを進める。	A	・職員の92.9%が効率的な業務改善に勤め、組織的・計画的な対応を進めている。 ・時間外勤務については、月によって偏りはある。平均的には減少傾向にある。
●特別支援教育の充実	○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図り、全職員で支援を行う。	○特別に支援を要する生徒の共通理解・共通実践により保護者・生徒と合意形成を図り、支援にあたる。	・支援を要する生徒への対応・支援体制の組織化を図るため、特別支援教育コーディネーターや進路指導主事、教育相談担当を中心にSC、SSW等との連携を図る。 ・巡回相談及び専門家派遣が必要ときには研修の機会を設け、保護者との連携を図り、専門家からの指導・助言を支援に生かす。	A	・ケース会議は基本的には学年ごとに、生徒一人に対し複数回実施。 ・特別支援コーディネーターやSC、SSW等と連携して個別に対応、細やかな支援体制をとることができた。 ・校内研修の中で、特別支援教育に関する講師招聘等、専門的見地から指導・助言を受ける機会を設けた。 ・SCやSSWと情報交換を行い、必要に応じてアドバイスを受け、保護者との連携を図った。 ・今後は、各種関係機関との連携も行うことも重要で、外部との連携も密にしていこう。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
○小中連携	○小中連携による学力向上の取り組み。	○小中による情報共有を学期に1回行う。	・小中連携した学校力向上対策運営委員会を活性化させ、積極的な授業参観や情報交換会を行い、成果と課題、今後の取り組みについて検討、共有する。	A	・小中連携の授業参観を1回行い、職員の半数が参加し情報交換等を行った。また、小学校区のセーフティネット会議や、「特別支援教育部会」「教育相談部会」などにおける情報交換を行い、生徒理解に努めることができた。 ・新入生の入学前連絡会を行い、スムーズな中学校生活のスタートができるように務めていく。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	全職員による研修や相互参観授業、効果的にICTを活用することで、授業改善を進めることができた。ほとんどの生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えており、生徒が意欲的に授業に臨む姿が見られた。また、各種の学力検査(定期テスト・実力テスト等)の正答率の向上につながり、無回答率も減ってきている。今後さらに教職員・生徒のICT活用を中心としたスキルを向上させることで、教員の授業力、生徒の意欲の向上に努めたい。「豊かな人間性の育成」についても、ほとんどの生徒が「望ましい学年・学級集団づくりをされている」と答えている。学級活動や道徳等の授業、行事等を通して、「思いやり」や「感謝」について考えることができていく。「健やかな体の育成」についても同様に、ほとんどの生徒が「健康教育」を通じて、「自他の命を尊重する態度が育ったと思う」、「健康に食事は大切である」と生徒が答えたことから、健康や安全に対する意識を高めることができていく。業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、定時退勤や時間外勤務など減少し、効果が現れてきているが、さらなる意識改革を図り、推進していききたい。 2年間の研究の成果を生かして、「デジタルの力でリアルな生活を支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚をもって積極的に取り組んでいきたい。
--------------------	---